

越前市白山地区のアライグマについて

保科英人^{*1}・中田真梨¹

要旨：越前市白山地区で、自動撮影装置によるアライグマの撮影を試みた。その結果、草むらに放置されたスイカに、複数個体のアライグマが頻繁に現れていることが明らかになった。その他、タヌキやアナグマなども出没していた。農作物への獣害被害の軽減のために、廃棄作物の適正な管理が必要であると考えられる。

キーワード：アライグマ、スイカ、越前市、福井県。

Hideto HOSHINA^{*1}, Mari NAKATA¹. 2009. Note on raccoons inhabiting Shirayama District, Echizen City, Fukui Pref. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 14:23-27. We attempted to photograph a raccoon by using an automatic photograph device in Shirayama District, Echizen City, Fukui Pref., Honshu, Japan. The results of our survey indicate that more than 1 raccoon frequently appears in a left watermelon in a bush. Moreover, raccoon dogs and brocks have also been spotted at such sites. The appropriate management of crop waste is necessary to reduce the damage caused to the farm produce by animals.

Key words: Raccoons, Watermelon, Echizen City, Fukui Prefecture.

はじめに

アライグマは、外来生物法が定める特定外来生物に指定されている哺乳類である。日本では、1960年代以降に飼育個体が逃げ出したり、野外に放獣されたりしたものが、各地で定着し、現在では、ほぼ全国に広がっている（日本生態学会 2002; 財団法人自然環境研究センター 2008）。

アライグマは、その愛らしい外見やアニメの影響により、日本では元々好意的な目が向けられてきたが、野生化により、様々な負の観点が表面化することになった。Zeveloff (2002) によると、原産地の北米でも、アライグマは「most chronic nuisance animals (最も恒常的な有害獣)」の一つであるとされている。池田 (2006) は、アライグマによって生じる問題点を、農業被害、住居侵入による生活被害、人体への健康被害、在来種との競合による影響、在来種への捕食圧の 5 つに分類した。

ここで、上記の 5 項目の中で、最後の在来種への捕食圧と言う点に関して見たい。アライグマによって、エゾサンショウウオやトウキョウサンショウウオなどの希少サンショウウオ類が捕食されているという報告がある（池田 2008）。これは、希少なサンショウウオ

の一種が生息する福井県越前市白山（しらやま）地区にとって、アライグマは、保全生物学上、無視できない存在の一つである。このほか、2009 年 9 月に行われた日本鞘翅学会の例会では、未発表データながら、アライグマの個体数が増加している地域で、地表徘徊性コウチュウ類のアオオサムシが激減しているとの話題提供が、国立科学博物館の野村周平博士よりなされた。同博士によると、アオオサムシは首都圏の公園でも普通に見られるコウチュウであり、それが壊滅的打撃を受けているのは、アライグマ以外に原因は考えられないとのことであった。実際、堀・的場 (2001) は、アライグマの消化管内容物から、セアカオサムシ、ゴミムシ、アオゴミムシなどの地表徘徊性コウチュウ類を多く見いだしており、アライグマがこれらのコウチュウ類を頻繁に捕食していると推察している。

また、白山地区は、アライグマの好物の一つとされるスイカの産地である。同地区で生産されるしらやまスイカはブランドとして、高い評価を得ており、各地に出荷されている。しかし、このしらやまスイカに対して、アライグマによる食害が発生しており、アライグマは、同地区の農業上の問題としてもクローズアップされている。

* 連絡・別刷請求先 (Corresponding author) E-mail: hhoshina@f-edu.u-fukui.ac.jp

1 福井大学教育地域科学部 〒910-8507 福井市文京 3-9-1

Faculty of Education & Regional Studies Fukui University, Fukui City, 910-8507 Japan

調査地と調査方法

2008 年度、福井県は自動撮影装置によるアライグマの個体確認調査のほか、県内 16 市町村および 3344 自治会に対して、アンケート調査を行った（水谷・西垣 2009）。筆者らは、県の調査の一部を分担し、主に越前市白山地区を調査地とした。2008 年 5 月～11 月に自動撮影装置（Fieldnote DCs700、麻里布商事（山口県岩国市）・アーパス社（広島県福山市）製）を、同地区の 4 ケ所に仕掛けて、アライグマの撮影を試みた。装置設置後、約 2 週間後に、カメラの写真データの回収と電池交換を行った。

次に、自動撮影装置を仕掛けた 4 ケ所の概要と、カメラ設置期間を記す。

越前市黒川町の山中

これは、黒川町の休耕田に隣接するスギ植林地帯である。この林内を本調査の主要なフィールドとした。カメラを設置した期間は、4 月 30 日～5 月 15 日、5 月 15 日～5 月 22 日、5 月 22 日～6 月 5 日、6 月 5 日～6 月 19 日、6 月 19 日～7 月 3 日、7 月 3 日～7 月 23 日、9 月 10 日～9 月 25 日、9 月 25 日～10 月 16 日、10 月 16 日～10 月 23 日である。ここでは、餌でアライグマの誘引を試みることをせず、カメラの前をアライグマが通過することのみを期待した。

越前市黒川町スイカ捨て場

黒川町スイカ捨て場とは、売り物にならない不良スイカが集められ放置してあった草むらを指す。放置スイカは山積みされ、最も多い時で、優に 100 個を超えていた。カメラを設置した期間は、7 月 23 日～7 月 30 日、7 月 30 日～8 月 13 日、8 月 13 日～8 月 27 日、8 月 27 日～9 月 10 日である。

越前市中野町

この調査場所は、道路および畑に隣接した中野町のスギ植林地内である。ここでは、餌でアライグマを誘引することを試み、飲み口近くで切断した 2 リットルの飲用ペットボトルを、逆さにして針金で樹木へ固定し、その付近にカメラを設置した。そして、ペットボトルの中に紐を通し、それにイカのスナック菓子を結びつけた。ペットボトルに結びつけたイカのスナック

菓子は、ペットボトルの外にあり、アライグマがすぐに食べられる状態のスナック菓子と、ペットボトルの中にスナック菓子をぶら下げ、中に前足を突っ込まないと、捕りにくい状態になるように、紐の長さを 2 種類で調節した。また、ペットボトルの近くには、入り口を完全に綴じた金網のネズミ捕りを設置した。ネズミ捕りの中には、かりんとうを入れた。ネズミ捕りは、ビニール紐で、樹木に縛った。ネズミ捕りに餌を入れたのは、カラスなどに奪われないようにするための工夫である。

自動撮影装置は、動体を感知してからデジタルカメラのシャッターが下りるのに、数秒を必要とする。よって、加工したペットボトルとネズミ捕りを撮影に用いたのは、餌に誘引させるだけでなく、寄ってきたアライグマを、できるだけカメラの前で滞在させるためである。

中野町でのカメラの設置期間は、10 月 29 日～11 月 13 日と 11 月 13 日～11 月 25 日である。

越前市安養寺町

この調査場所は、安養寺町内の道路および畑に隣接したスギ植林である。中野町で使用したペットボトルとネズミ捕りによる方法を用いた。カメラの設置期間は、11 月 13 日～11 月 25 日である。

結果

結果を表 1 に示す。アライグマ以外の撮影された哺乳類についても、種と個体数を記録した。撮影されたアライグマについては、1 日 24 時間を 3 時間ごとの時間帯別に整理して、個体数を表に記した。アライグマが撮影されたのは、黒川町のスイカ捨て場と（図 1）、中野町である（図 2）。黒川町の山中では、最も長くカメラを設置しながら、撮影されたのは、大半がイノシシであり、アライグマは記録されなかった。黒川町のスイカ捨て場では、約一カ月半のカメラ設置期間の中で、同時に最大 3 頭の個体が写っていた写真も撮影できるなど、大きな成果を得ることができた。ここでは、アライグマのほか、タヌキやアナグマなど、アライグマと同様農作物に被害を与える哺乳類が記録された。中野町は、2 週間強のカメラ設置期間で、1 回 1 個体のみの撮影であった。黒川町のスイカ捨て場と、同市中野町の両方で、アライグマが撮影された時

表 1 調査期間における哺乳類の確認個体数.

越前市黒川町山中

撮影日付	アライグマ (時間帯別)								イノシシ	タヌキ	ウサギ	アナグマ	イタチ	ニホン カモシカ
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧						
2008.05.07									1					
14									1					
18									1					
6.11									1					
13											1			
18									1					
21									1					
7.09														1
12									1					
9.27											1			
10.07									3					
12									1					
19														
20									1					
21									1					

越前市黒川町スйка捨て場

撮影日付	アライグマ (時間帯別)								イノシシ	タヌキ	ウサギ	アナグマ	イタチ	ニホン カモシカ
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧						
2008.07.30										1				
8.01	1									1		1		
27								2						
27								1						
28		1												
28		2												
28		3												
9.01								1						
9.01								2						
8								1						
8								2						
8								3						

越前市中野町

撮影日付	アライグマ (時間帯別)								イノシシ	タヌキ	ウサギ	アナグマ	イタチ	ニホン カモシカ
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧						
2008.11.01											1		1	
2													1	
3													1	
17								1						

越前市安養寺町

撮影日付	アライグマ (時間帯別)								イノシシ	タヌキ	ウサギ	アナグマ	イタチ	ニホン カモシカ
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧						
2008.11.13										1				
15											1			

確認時間帯は、24 時間を 0 時から 3 時間毎に 8 つに区分して表示した；①：0～3 時，②：3～6 時，③：6～9 時，④：9～12 時，⑤：12～15 時，⑥：15～18 時，⑦：18～21 時，⑧：21～24 時。同じ日のデータが複数あるのは、1 頭写ったもの、複数頭写ったもの、両方の写真があることを意味する。



図1 越前市黒川町スイカ捨て場に現れたアライグマ。2008年9月8日撮影。

間帯は、18時～6時の夕方から早朝までの夜間のみであった。

考察

アライグマは夜行性であることが従来知られており（日本生態学会 2002）、今回撮影された時間帯については、それを再確認したにすぎない。白山地区では、既にアライグマの出没が知られていた。今回の撮影では、幼獣の確認はできなかったものの、複数個体の生息が確実になったことで、同地区にアライグマは定着した状態であると言ってよい。ただし、今回、黒川町の山中では、アライグマが1回も撮影されなかったように、同じ白山地区でも、アライグマが出没するエリアは、ある程度限定されているようである。撮影調査の合間に行った農家へのヒヤリング調査でも、アライグマのスイカへの食害は、隣接するスイカ畑でも、被害に遭う畑には偏りがあり、山に近い周辺部がより被

害に遭いやすいらしい。

アライグマの原産地である北米では、アライグマの庭園や養鶏場への侵入は、電気柵によって、大概是防ぐことができるという（Zaveloff 2002）。この白山地区でも、スイカに対する被害については、電気柵の設置によって、かなりの食害を防ぐことができたようである。

しかし、アライグマの定着による、考えられる最も深刻な影響である、希少なサンショウウオ類の捕食は、柵によって防ぐことはできない。また表1には、詳細な時刻を記していないが、アナグマが、黒川町のスイカ捨て場に現れたのは、8月1日の午前10時59分である。金子（1996）によると、アナグマは主に夜行性のようであるから、スイカ捨て場に姿を見せた時間帯は、この原則に反する。当然、これだけでもって、アライグマの存在が、アナグマの行動パターンに影響を与えているということとはできないが、アライグマに



図2 越前市中野町に置いたイカのスナック菓子に誘引されたアライグマ。2008年11月17日撮影。

よる他の動物の直接捕食以外の影響についても、調査を継続する必要がある。

アライグマに対する根本的な解決策は、駆除しかないが、それに加えて、放棄農作物をきちんと処理し、それらをアライグマに食べさせないことも重要である。大量のスイカを草むらに捨てることは、アライグマを飼養しているに等しい行為であり、適正な管理が求められる。

引用文献

- 堀繁久・的場洋平. 2001. 移入種アライグマが捕食していた節足動物. 北海道開拓記念館研究紀要 29 : 67-76.
- 池田透. 2002. アライグマ. 日本生態学会(編) 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京. pp.70.
- 池田透. 2006. アライグマ対策の課題. 哺乳類科学 46 : 95-97.
- 池田透. 2008. 外来種問題 : アライグマを中心に. 高槻成紀・山極寿一(編) 日本の哺乳類学 2 : 中大型哺乳類・霊長類. 東京大学出版会, 東京. pp.369-400.
- 金子弥生. 1996. ニホンアナグマ. 日高敏隆(監修) 日本動物大百科 1 : 哺乳類 I. 平凡社, 東京. pp.142-143.
- 水谷瑞希・西垣正男. 2009. 福井県におけるアライグマの生息状況(予報). 福井県自然保護センター年報(平成20年度). 16 : 31-34.
- 財団法人自然環境研究センター(編)・多紀保彦(監修). 2008. 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京.
- Zeveloff, S.I. 2002. Raccoons. A natural history. Smithsonian Institution Press, Washington.